

令和8年度第1回秋田県立美術館運営協議会（議事要旨）

- 1 日 時 令和8年6月2日（火） 10:00～12:00
- 2 場 所 秋田県立美術館 1階 レクチャールーム
- 3 出席者 秋田県立美術館運営協議会委員 6名（総数7名、欠席1名）
事務局 4名（生涯学習課2名、公益財団法人平野政吉美術財団2名）

4 次 第

- (1) 開会
- (2) 公益財団法人平野政吉美術財団業務執行理事（秋田県立美術館長）あいさつ
- (3) 出席者紹介
- (4) 報告
 - ① 令和7年度までの秋田県立美術館運営状況の報告及び説明
 - ② 令和8年度 秋田県立美術館事業の概況について
 - ③ Museum 特別展充実事業と外部評価について
- (5) 協議（意見交換）
 - ① 美術館における情報発信について
 - ② 若年層・子どもへの美術教育と観賞体験の工夫について
 - ③ 展覧会の料金設定や支払い方法について
 - ④ 夏季と冬季の美術館利用者数の格差について
- (6) その他
- (7) 閉会

5 協議概要（○：協議会委員 ■：事務局）

- ① 美術館における情報発信について
 - 利用者が SNS で展覧会について発信すると、繋がっている人々にも伝わるため強力な広報手段である。しかしながら、利用者が SNS で発信するためには写真が必要であり、それが集客効果を生むため、大壁画「秋田の行事」などの撮影を許可できる工夫ができないか。
 - 以前より「秋田の行事」が撮影不可であることについてはアンケートなどで要望をいただいており、現在平野政吉美術財団内でも検討を行っているため、もう少しお時間をいただきたい。
 - 作品の著作権により撮影許可が厳しい場合、エントランスや特徴的な階段など、美術館の建築空間そのものをフォトスポットとして活用してはどうか。
 - 特別展においては主にエントランスに作品を拡大したもの等を背景に記念撮影ができるフォトスポットの設営を行うようにしてきており、今後の特別展でも継続予定である。
 - 一つの展覧会のなかで撮影 OK な作品と撮影 NG な作品が混在している場合に、そのマークが分かりにくい場合があるため、特に撮影 NG の掲示を明確にしてほしい。
 - 同じ展覧会の中で撮影可否が混在していることについては混乱させており申し訳ない。より明確に区別できるよう表示方法を検討させていただきたい。
- ② 若年層・子どもへの美術教育と観賞体験の工夫について
 - 若い世代が美術館に足を運ぶきっかけとして、幼児や小中学生の頃からの美術体験や、本物に触れる機会が重要であるが、美術館に対するイメージ等の関係から足が向きにくいと思う。
 - 例えば「静かに見なければならぬ」という窮屈さをなくすため、作品の色について考えたりするクイズ形式の導入や、会話を楽しみながら見られる「おしゃべり鑑賞」の時間を設

けるなどカジュアルに足を運べるイメージ作りを行っていく取り組みはどうか。

- 過去に声を出して良い時間を設けたことはあったが周知不足の面もあったため、「おしゃべりして良い時間」などに関しては今後も改めて取り組んでいくほか、子どもたちが絵を見る楽しさを感じられるよう、他教育機関との連携やワークショップを通じて、小さい頃から美術に触れる機会の創出に取り組んでいきたい。

③ 展覧会の料金設定や支払い方法について

- 今春の特別展のように入場料金が上がると来館者に割高感を与え、足が遠のく原因になるのではないか。
- 値上げだけでなく、他文化施設との共通パスや、直前の特別展チケットの半券提示によるリピーター割引など来館を促すインセンティブを併せて設けるのがよいのではないか。
- 輸送費や光熱費の高騰などにより特別展料金の値上げを行うこととなったが、今回は 60 歳以上の場合に割引となる設定や、同時期開催の他展示との相互割引などを実施し割高感を抑える工夫を行ったところ目立ったクレームは入っていない。こういった工夫を今後も検討していきたい。
- キャッシュレス決済が使用できる場合と使用できない場合があるが、こういった基準か。
- 特別展は実行委員会形式という一時的な外部団体を組織して入場料を普段とは別に管理していることから、秋田県支給のキャッシュレス決済端末が使用できないためである。
実行委員会でキャッシュレス決済に対応するためには秋田県のものとは別に端末をレンタルする必要があるため財源確保が難しいという問題から導入が難しくなっている。

④ 夏季と冬季の美術館利用者数の格差について

- 夏季に比べて冬季の利用者数が非常に少なく推移している。冬季の利用者数減への対策としてエントランスを目立ちやすいイルミネーション空間とすることや、美術大学学生などの展示スペースとして積極的に活用していくべきではないか。
- 夜間にラウンジからの夜景や水庭を楽しむ企画は魅力的であると思う。
- 冬季の利用者増の方策として、エントランスに展示を設けて来館のきっかけを作るというアイデアは面白いと感じる。また、夜間に美術館を開放するのは管理上の難しさからこれまで実施していなかったが、イベント等に合わせたスポット的な夜間開館は検討していきたい。